

# 基礎看護援助論

単位数（時間数）：2 単位（30 時間） 必修/選択：必修 履修年次：1 年次 開講時期：前期

科目責任者（職位・氏名）：教授・永井 睦子

科目担当者（職位・氏名）：助教・野中みつ子、助教・山田 英子

---

対応DP：基礎力をもった社会人 ケア・スピリット 看護専門職者としての基本姿勢

看護の基礎的・専門的知識・技術 社会への関心と地域貢献 生涯学習・自己研鑽

科目記号：45

## ■ 授業概要

看護技術とは何か、看護技術の特徴および看護技術基本的な概念、看護実践における看護技術の意義を教授する。そして、看護技術における安全・安楽・自立の基本原則について教授する。また、看護援助の基盤となる「コミュニケーション」「感染予防」「ボディメカニクス」「体位変換」等の必要性を理解し、看護の対象者に応じて実践できる基礎を身につけることができるよう知識と実践が統合できるよう講義と演習を組み合わせる。さらに、学修全体を通して、看護専門職者としての基本姿勢・倫理的態度、及び専門科目の学習方法、看護を実践するための思考方法を養う。

## ■ 到達目標

1. 看護技術とは何か、看護を行うための構成要素について説明できる。
2. 看護技術における安全・安楽・自立・自立・自律の概念を説明できる。
3. 対象者との関係を成立するためのコミュニケーションの重要性を説明できる。
4. 感染予防の意義と感染経路を遮断するための方策を説明できる。
5. 感染予防、環境整備、ベッドメイキング、ボディメカニクス等の技術を根拠に基づいて実践できる。
6. 活動・休息を支援する援助技術を根拠に基づいて実践できる。
7. 学習課題および演習に積極的に取り組み、看護技術の習得のための主体的な行動がとれる。

## ■ 教育内容

基礎看護学

## ■ キーワード

看護技術、安全・安楽、コミュニケーション、生活環境、感染予防、ボディメカニクス、体位変換、移送、移乗

## ■ 授業計画（授業項目、授業内容・授業方法、担当教員）

回	授業項目	授業内容・授業方法	担当
1	ガイダンス 看護技術とは何か 看護実践における基本技術とは	【講義】 本科目の目的・目標、学習内容・方法、履修上の留意事項（自主練習のすすめ） 看護技術とは、看護技術の特徴、看護技術に求められる要素 看護師に必要なコミュニケーション技術と基本的態度	永井
2	感染予防を推進する技術①	【講義】 感染予防の意義と方法 感染症を成させる要素と成立過程	山田
3	感染経路予防を推進する技術②	【演習】2グループに分かれて実施する （実習室の使用方法） 手洗い・個人防護具の使用	共同
4	人間関係を成立・発展させるための技術	【演習】2グループに分かれて実施する 援助的人間関係構築のためのコミュニケーションの基本	共同
5	快適な生活環境を整える援助①	【講義】 環境調整の意義と環境の諸要素 病室と病床の環境調整の方法	野中
6	快適な生活環境を整える援助②③	【演習】2グループに分かれて実施する 環境整備、ベッドメイキング 臥床患者のシーツ交換	共同
7			
8	効率的で安楽な動きをつくり出す技術①	【講義】 ボディメカニクスの基本 安楽な体位とボディメカニクス 同一体位による弊害	野中
9	効率的で安楽な動きをつくり出す技術②	【演習】2グループに分かれて実施する。 安楽な体位・良肢位 ボディメカニクスを活用した体位変換 ポジショニング	共同
10			

11	活動・休息を支援する援助技術①	【講義】 活動・休息の意義と生理学的メカニズム 移動・移送・歩行介助の援助	野中
12	活動・休息を支援する援助技術②	【演習】2グループに分かれて実施する 移動・移送（車椅子、ストレッチャー） 歩行介助	共同
13			
14	<実技テスト> 環境整備・ベッドメイキング	全体を2グループに分かれて実施する。 (評価指標・スケジュールなどの詳細は別途配布する)	共同
15			

※予定は変更することがある

## ■ 履修条件

特になし

## ■ 成績評価方法

期末試験 50%、実技テスト 30%、事前学習と演習への取り組む姿勢 20%

## ■ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバック方法

- ・事前学習ワークシートのフィードバックは、コメントを付して行うとともに、質問欄に記載のあった内容については解説をする。
- ・演習へ取り組みについては、演習時間終了時に全体もしくは学生個々にフィードバックを行う。
- ・期末試験は、希望者に対してフィードバックを行う。希望者は、結果発表日以降2週間以内に、科目責任者へメールにてアポイントをとること。

## ■ 教科書

- ・『デジタル ナーシング・グラフィカ』メディカ出版  
基礎看護学 ② 基礎看護技術 I

## ■ 参考書・参考資料等

- ・必要時、授業内で提示する。
- ・授業前にワークシート（事前学習課題）、演習前に演習要項を配布する。
- ・看護技術経験録を活用する。

## ■ 準備学修に必要な時間及び具体的な学修内容

- ・授業1時限につき、事前学習時間として90分、事後学修時間として150分程度を必要とする。
- ・事前学修：教科書該当箇所通読、ワークシート作成、演習要項熟読、演習課題作成
- ・事後学修：授業目標の自己評価、復習、技術修得に向けての計画的な自己練習

## ■ 担当教員からのメッセージ

本科目では、看護の専門的な援助の方法と実践を学習する基礎となる内容を学びます。日々の日常生活に目を向け、患者-看護師双方の安全・安楽を保つためにどのようなことが必要なのかを考えて生活してほしいです。そして、看護とは、看護技術とは何かと思考し続ける姿勢で講義・演習に臨むことを期待します。

## ■ 研究室、連絡先、オフィスアワー

研究室 17 nagai★iwate-uhms.ac.jp、事前に連絡してから訪問してください。

(※メールの際は★を@にしてください)

## ■ 担当教員の実務経験の有無

有

## ■ 担当教員の実務経験

看護師

## ■ 教員以外で指導に関わる実務経験者の有無

有

## ■ 教員以外で指導に関わる実務経験者

看護師

## ■ 実務経験を活かした教育内容

病院での看護師の経験を生かし、看護実践する上での原理・原則をふまえより実践的な看護技術の教授に努めています。